



ムスジイトンボ(写真2)



ウチワヤンマ(写真1)

ふるさとの自然

16

水辺をスイスイと飛び交う 夏のトンボ

夏の池や沼では、さまざまな種類のトンボが水面を飛び交っています。夏に市内の池や沼などで見られる代表的なトンボを紹介します。

●力強く飛ぶギンヤンマ

夏のトンボの王者は、やはりギンヤンマでしょう。雄は腰の青い色が印象的です。自分の縄張りを巡回しながら雌を探します。ほかの雄を見つけると激しく追い掛けます。この習性を利用して、おとりのギンヤンマを使い、飛び付いてきた雄を捕まえたものでした。今では数が少なくなりましたが、市内各地の池などで見られます。

●しっぽにヒレがあるウチワヤンマ

袋のため池などの広い池には、体が緑色でしっぽにうちわのようなヒレがあるトンボが住んでいます(写真1)。ウチワヤンマという名前ですが、ヤンマの仲間ではありません。岸辺の杭や水草にじっと止まり、雌を待っています。ほかの雄がやってくると攻撃して追い払います。

●細い体のイトトンボ

水面に浮かぶヒシなどの水草のある沼には、細くて小さなイトトンボの仲間が住んでいます。イトトンボにはいろいろな種類がありますが、川口沼に多いのはムスジイトトンボです(写真2)。雄は体の色がきれいな青い色をしています。県内では数が少ない珍しい種類です。

●里に住む身近な生き物

人里でもよく見られるトンボは、古くから人々に親しまれてきました。昔、日本の国を秋津島といいましたが、秋津とはトンボのことです。また前へ進んで後に下がらないので縁起の良い「勝ち虫」として、武士のかぶとなどに飾られました。しかし、今ではトンボの住みやすい環境が少なくなり、数が減っています。

(齊藤敏一)

編集こぼれ話

夏の電力の削減目標が示され、全国的にも節電の意識が高まっています。17年ほど前、当時の羽田首相が半袖スーツを着て話題となったのを、ふと思い出しました。発想が斬新過ぎたのか？ デザインがイマイチだったのか？ その後、半袖スーツを見たことはありませんが、今日のクールビズへとつながる先駆的試みであったことは間違いないと思います。この夏エネルギーの非常事態。常識にとられない斬新な発想と実行が、今こそ必要な気がします。(ま)

イキイキ

あさひっ子



かなと
奏翔ちゃん

平成22年1月21日生
両親＝林浩明さん
真実さん[岩井]

「ぼくの好物はいちご！
いちごを食べてからハイポーズ！」

みう
美羽ちゃん

平成22年3月1日生
両親＝菅谷浩之さん
友里さん[鎌数]

「いっぱい食べるよ！
元気モリモリ☆ にやー
にやー大好き！」



ちな
智那ちゃん

平成22年8月25日生
両親＝長谷川雅和さん
裕美さん[二]

「フルーツが大好き！
おめめとほっぺがチャー
ムポイント☆」



“イキイキあさひっ子”を大募集

掲載を希望する人は、秘書広報課広報広聴班(〒289-2595 旭市二の1920・☎62-8070)へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、旭市保健センター、飯岡保健センター、秘書広報課にあります。

くらしのカレンダー

1日(金) 旭市防犯デー、防犯週間(～7日(木))

16日(土) ミスセタコンテスト(午後1時30分～ 東総文化会館)

18日(月) 海の日

24日(日) アナログテレビ放送終了